

果皮色が濃く外観が優れるカキ「麗玉(れいぎょく)」の特性

カキ「麗玉」は、10月中下旬に収穫される完全甘柿で、果皮色が濃く、玉揃いも良く、外観が優れ、食味も良好である。また、条紋、汚損、へたすき、果頂裂果ともほとんど発生しない。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室(担当者:平本 恵)

研究のねらい

本県ではカキの主力品種として「太秋」を産地化しブランド化を図っているが、軟化果実や汚損果が発生し、生産が不安定である。そこで、「太秋」と組み合わせることで経営安定が図られ、良食味で障害の発生が少ない優良品種を選定する。

研究の成果

<来歴>

「麗玉」は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門で「甘秋」に「カキ安芸津19号」を交配して育成され、平成28年に品種登録された完全甘柿である。

1. 樹勢は中程度で、展葉期は「刀根早生」より6日遅く「太秋」と同時期で、開花期は「刀根早生」、「太秋」よりも3~6日程度遅い(表1)。
2. 雌花の着生は多く、雄花は少ない(表1)。結実性は良好で、早期落果および後期落果ともに少ない(表1)。
3. 収穫期は10月中下旬で、「太秋」よりやや早く「刀根早生」と同時期である(表1)。
4. 果実の大きさは、「刀根早生」より大きく、「太秋」よりやや小さいが平均して350g程度で玉揃いは良好である。「太秋」のようなサクサク感はないが、果肉硬度および糖度は「太秋」と同程度で食味は良好である(表2)。
5. 果皮色は、「刀根早生」および「太秋」より濃い橙色となる(表2)。
6. 無袋栽培において、条紋、汚損、へたすき、果頂裂果ともほとんど発生しない(表2)。

普及上の留意点

1. 無袋で栽培した結果である。
2. 夏秋期の気温が高い地域に適応し、「富有」の栽培地域で栽培が可能である。
3. 「刀根早生」等、一部の品種に高接ぎした場合に生育不良が生じ、果実の小玉化や樹勢の低下が認められる。
4. 単為結果力が高いため受粉樹が不要である。



写真1 カキ「麗玉」の結実状況



写真2 カキ「麗玉」の果実

表1 「麗玉」の生育特性(2017~2019)

品種名	樹勢	展葉期 (月/日)	開花期(月/日)		着花		結実性		収穫期(月/日)		
			始	盛	雌花	雄花	早期落果	後期落果	始	盛	終
麗玉	中	4/4	5/9	5/11	多	少	少	少	10/14	10/18	10/24
刀根早生	強	3/29	5/3	5/5	多	なし	少	少	10/12	10/15	10/20
太秋	中	4/4	5/6	5/8	やや少	多	少	多	10/30	10/31	11/6

注1)2017年~2019年の平均(但し、展葉期は2017,2019年2ヶ年の平均)

注2)早期落果:摘果時(少:30%以下、中:30~50%、多:50%以上)、後期落果:8月以降(少:5%以下、中:5~20%、多:20%以上)

表2 「麗玉」の果実特性(2017~2019)

品種名	1果重 (g)	果肉硬度 (kg)	糖度 (Brix)	果皮色(C.C.)			玉揃い	障害果の発生			
				果頂部	赤道部	果底部		条紋	汚損	へたすき	果頂裂果
麗玉	343	1.54	16.7	6.1	5.4	4.8	良	少	少	少	なし
刀根早生	262	1.40	18.5	4.9	4.3	4.0	良	なし	なし	少	なし
太秋	436	1.34	17.0	4.5	3.8	3.5	中	やや多	中	やや多	微

注1)2017年~2019年の平均

注2)果皮色(C.C.)はカキカラーチャート値

注3)「太秋」は白一重袋による有袋栽培

注4)果肉硬度は果実硬度計(KM-5型、円筒形プランジャー)により計測